

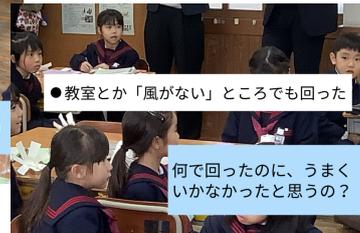
めあて「かぜの手がかりを見つけるためにふりかえりをしよう」

(ふゆとなかよし～かぜとなかよし～)

本時では、冬の風を利用した遊びについて、前時で遊んでみて上手い点や上手いかなかった点を振り返ったり、自分と友達の遊び方や道具を比べながら話し合ったりすることを通して、風を生かしてより速く動いたりより高く飛んだりするための方法を考えた。



前時の遊びの様子



何で回ったのに、うまくいかなかったと思うの？

児童は、「風を使うためにはどうする?」という担任の問いをきっかけに、「風車を使って、風を見つける! “風のレーダー”みたいな!」とアイデアを出したり、同じおもちゃチームの友達と相談しながら改良したりして、風と仲良く遊ぶための工夫について、対話を通して考えていた。その際、目の前におもちゃの現物を置いてすぐに見られるようにしたり、実際に飛ばして試したり、事前に考えていた「ゆめのおもちゃ」など、過去の学びや現在の気づきを情報として活用していた。



大分県教育委員会の友永指導主事からは、2つの小単元(『ふゆとなかよし』の「(5) 季節の変化と生活」「(6) 自然や物を使った遊び」)の内容を同時に学習する際、両方の単元で「つきたい資質・能力」を指導者はきちんと留意して指導をすることが大切である。今回は「遊び(おもちゃの工夫)」に児童の目が向き過ぎたので、「風とどうしたら仲良くなるか」という点に目を向けさせたい。」



「“風のレーダー”と発言していた児童の言葉をきっかけに全体に広げる等が、一つの手立てとして考えられる。」等のご指導をいただいた。

